

津軽圏域の地域医療を担う新中核病院に対する意見募集の結果について

募集期間：平成30年12月3日～平成31年1月11日

応募件数：6件（16意見）

番号	応募方法	応募要件	意見等	回答
1	郵便	市内に住所を有する人	<p>立体駐車場並びに融雪システム（地下熱）による併設整備について</p> <p>基本方針に基づく整備に伴う建築面積は現在に比べ格段に増えることが見込まれます。</p> <p>したがって、患者数はもとより教育・育成面等の充実による外来車両もまた飛躍的に増加すると推測されます。よって、駐車場（職員含む）の確保整備（記述なし）は不可欠、建物と表裏一体のものであり、車社会の現状に鑑み十二分な対応されるよう提言します。</p> <p>※参考</p> <p>1) 利用者がかつて駐車場で困却した公共施設 弘前市役所、弘大附属病院、青森空港（いずれも後年立体化）</p> <p>2) 融雪システム（地下熱） 五所川原市役所（大成功）</p>	<p>○新中核病院の整備は、国立病院機構が、昨年10月から整備事業に着手しており、現在、新中核病院整備工事の設計業者において、新病棟の他、既存病棟の改修や外構も含めた新病院全体の整備内容等の検討を進めております。</p> <p>新病院の施設整備計画の中で「患者搬送や患者が移動しやすい動線も考慮し、効果的・効率的な構造」とする他、「誰もが利用しやすいようユニバーサルデザインに配慮した整備」等としていることから、いただいたご意見を国立病院機構と共有し、通院患者をはじめとする来院する方々の利便性ができ</p>

				るだけ向上するよう努めてまいります。
2	郵便	市内に住所を有する人	<p>中核病院が整備され、病院機能が向上されるのはとても安心できるのですが、在宅医療は追いついてけぼりになりませんか？</p> <p>弘前には、訪問介護事業所はたくさんあると思いますが、弘前の訪問介護師として訪問している介護師が、やや高齢である現実があります。実際に私の娘は医療的ケアを必要としている障害児で、訪問介護師さんは50歳以上、60歳以上等です。</p> <p>経験豊富で助かりますが、在宅では力を要する入浴介助（病院の様にはいきません）等もありますが、介護師さんがもう少し若ければとお互い感じている所も正直あります。</p> <p>地域の医療との連携を、こちらとしてはかなりの期待です。弘前は在宅医療がスゴイと思われる様な地域にしてみたい。訪看を利用したタブレットやPCでの在宅医療が進めば、訪看への指示を在宅にする事で、急を要さない救急車使用も減らせるのではと考えます。</p> <p>新しい中核病院で訪看を持っても良いのではとも考えます。</p> <p>医療的ケア児を在宅で育てていますが、弘前には重度障害児が安心して通所できる所が現実には少ないのです。ホームページに受け入れ可とあっても症状で断われたり、色々と現実には厳しいのです。大学があり、国立があり、病気や障害があっても在宅へ帰せる様になった今でも、在宅では現実には殆ど家族が寝る時間も無く介護、育児をしています。先生方が助けてくれた小さな命を育てていくために、在宅が不安な弘前市ではなくなる様、中核病院が取り組む内容が</p>	<p>○医療的ケアが必要な障害児（医療的ケア児）が、地域で生活を営むためには、訪問診療や訪問看護等の医療体制の整備、医療的ケア児に対応できる短期入所や障害児通所施設の確保、保護者の意向などを勘案した受け入れ体制の整備が必要となりますが、市内のみならず県内においても、重症な障害をもつ小児の訪問診療に対応できる診療機関が少ない状況であると伺っております。</p> <p>今後、在宅医療の重要性がますます大きくなるものと認識しており、いただいたご意見・ご要望は、国立病院機構をはじめ関係機関と共有し、地域医療を担う病院・診療所等との連携体制構築し、少しずつでも状況</p>

		<p>とても大切になってくると思います。私の娘は短期入所を利用したいと思ったら、青森病院しか受け入れ可能ではありません。青森病院も混んでいて入れるのは大変なんです。在宅で介護、育児をしている方々に、もっとどんな機能があるといいか、地域の意見も聞いてみたらどうでしょうか。岩手の大学病院が矢巾に整備した所は大学病院と並んで療育センター等が整備されています。経営体制が違うから同じ様にはいかないとも、見習う所はあると思います。</p> <p>駐車場1つ取っても、リフト車が昇降すると他の車を止めたり、止まってくれず、娘の車椅子ギリギリを車で行く人がいたり。これは駐車場の作り方を見直して意見を市民からもらうべきだし、院内のあり方もベビーカーの目線、車椅子からの目線、仕事をする人の意見、妥協せず意見を出してもらい、出来上がった病院が何これ？とならない物にして欲しい。障害者のトイレにベットがない、車椅子で通ると他の人が通れない等、出来あがった物が笑われる様な病院になってほしくはありません。</p> <p>医療、介護、福祉の各関係機関との連携強化とありますが、実際に暮らしている人々が何を望んで暮らしているのかを知りたいと考えませんか？在宅医療に中核病院が力を入れてくださる事を望みます。病院で助かった命を在宅で安心安全に、介護者も今より楽になる地域になる、中核病院が持つ役割は大きいと思います。地域の訪問看護師に若い人が育たない背景も、この地域全体で考えていくべきだと思います。</p> <p>経営体制が違うとはいえ、一般市民にですら耳に入ってくる青森病院の黒字、参考になるのではないのでしょうか。入院すると日によっては（国立弘前病院）</p>	<p>が改善されるよう努めてまいります。</p>
--	--	---	--------------------------

			<p>ベットがスカスカです。病人が少ないことはいい事だけど、ここで短期的にでも私の様に子供を預けて休める所がない家庭も利用して、名目何であれ、医療の必要な在宅患者の家族の心身の休みの為に利用させて利益が出た方がいいんじゃないかと、勝手ながらスカスカの病棟をみて、この病院大丈夫？と思ったりします。</p> <p>これからの地域を担う子供達にどんな病院がいいかアンケートを取ってみたり、絵を書いてももらったり中核病院が地域にオープンである事が話題となるのもいいのではないのでしょうか。</p> <p>ホームページに難しく書いてある基本計画を読んでいて、で、どう整備されるの？と内容が見える物でもなければ堅苦しく書いてあるので、？がいっぱいです。誰に読んで欲しいのか知りませんが、という気持ちになりました。</p>	
3	F A X	市内に住所を有する人	<p>ぜひ、2010年5月に完成した京都大学医学部附属病院又は京都府立医科大学附属病院をぜひ参考にしたらいかがですか。</p> <p>他病院の良いところはぜひ導入してほしいです。</p> <p>まずは診療カードは外来患者も含め裏面がバーコードになっている為、受付機にかざすだけで今日の診療・検査予定表および診療科・予約時間がすべてわかるため、今の弘前病院のように、いちいち診療科の検査をしなくてよく、個人々の電子カルテに繋がっているため、診療カード1枚ですべてが完了する。</p> <p>外来及び入院患者に好評の一部</p> <p>①外来および入院患者・見舞い客に好評なのは、タニタ食堂なみのカロリー計算されたレストランがあること（洋食・中華・和食と幅広い）特にその日の</p>	<p>○患者さんに安全で良質な医療を提供するためには、充実した医療設備に加え、快適な療養環境を確保することが重要であると考えます。</p> <p>また、病院を支える職員の快適な労働環境を整備することで医療の安全と質の向上につながるものと考えます。</p> <p>新中核病院の施設整備計画の中でも「快適な療養環境及び</p>

		<p>患者のメニューと同じ食事も食べれる。</p> <p>②やはり一番は図書館があるため入院患者を飽きさせない。</p> <p>a 郵便局も入っている。</p> <p>b 理容室、美容室も入っている。</p> <p>③コーヒー喫茶がある（DOUTORが入っている）外来・見舞い客・患者等とくつろげるスペースがある。</p> <p>④コンビニが入っている。（ローソン）</p> <p>他のコンビニと違う点は医療関連患者に必要な物（腹帯、パンツ等）すべてそろっている。あとは通常のコンビニと変わらず在庫している。（雑誌、単行本が充実している）</p> <p>※書店が別にあるともっと良い。（TUTAYA等）</p> <p>※写真現像があるとともっと良い。（特に携帯電話用）</p> <p>現在私は弘前病院入院中であるが、以上が私が3年前入院患者を見舞いに行った時に見て感じた部分ですが、他にも他病院にない物もあると思います。患者は全国から入院待ちしている方が多いだけに寛ぎやすいスペースを多くとっているところが良かったです。</p> <p>追伸 ※特に重要</p> <p>これだけの大型総合病院で働く人が多い中、彼らの食に関して社食（社員食堂）が無いとは今どき考えられません。</p> <p>やはり病院関係者、テナント、出入業者等多くの方がゆっくり食事ができ、特に看護師、医師等日勤・夜勤が多いだけに朝食、昼食、夕食、夜食がいつでも食べられることが一番重要だと思います。</p>	<p>プライバシーの確保、職員が働きやすい職場環境に配慮した整備」としていることから、いただいたご意見を国立病院機構と共有し、利用者や働く職員にとって快適な施設整備となるよう努めてまいります。</p>
--	--	---	--

			やはり他の病院（タニタ食堂並みの）は大型の社食がありメニューも豊富でした。	
4	Eメール	市内に住所を有する人	<p>※交通アクセスについて意見を述べたい。</p> <p>現在の国立病院機構弘前病院（以下、国立）と弘前市立病院（以下、市立）の交通アクセスを比較した場合、市立は公共交通機関であるJR奥羽線弘前駅や弘南鉄道弘前駅、さらに弘南バスターミナルに近く、高齢者が歩いて行ける位置にある。また、接続する道路網は歩道が整備されており、バリアフリー化も可能である。</p> <p>一方、国立は弘南鉄道弘高下駅が近くにあるものの、アクセス道路は狭隘で歩道もなく、今後の弘前平賀線の延伸を待たなければならない。また、路線バスを利用するにも乗り継ぎを余儀なくされ、高齢者には不便である。さらに国立病院の入り口交差点は変則の4叉路交差点で、自家用車で行った場合、石川土手町線の交差点は曲線部で非常に見通しの悪い線形となっている。</p> <p>この結果、交通アクセスだけを比較すると市立が比較優位となる。</p> <p>そこで提案であるが、市立病院向いの旧一大跡地に病院棟を建築し、現在の市立敷地に立体駐車場を建築して渡り廊下で繋げば必要十分な病床の確保と駐車スペースが確保できる。確かに現在の国立敷地は市立敷地の2倍以上の面積を持つと思われるが、市立敷地も工夫次第では必要面積を確保することができるし、何よりも事業の原資である税金を払う市民の利便性が向上する。さらには旧市内の活性化やドーナツ化現象の解消にもつながる。</p> <p>近年、旧市内には高層マンションが林立し、1棟当たり70～80戸の所帯で構成され、その戸数は旧市内の1町会に相当する。つまり、新たに町会ができているのと同じである。このような中であって、中核病院は歩いても行ける距離</p>	<p>○新中核病院への交通アクセスについては、新病院の開院に伴い、これまで市立病院に入院・通院されていた患者や近隣市町村からの新たな来院者のほか、職員等による交通量が増加することが見込まれることに加え、救急搬送経路の確保に向けた環境整備が重要であることから、現在、交通需要予測による混雑度の解析や交差点改良の必要性、公共交通の利便性などの検討を行っております。</p> <p>今後、この検討結果を踏まえ、交差点改良や道路整備等の必要性を判断し、患者をはじめとする全ての来院者が安全で円滑にアクセスできるよう、国立病院機構や道路管理者等との連携を密にして対応してま</p>

			<p>が理想で、さらに近隣・近郊の住民も公共交通機関等を利用して通勤できる位置が理想ではないだろうか。</p> <p>走り出した事業は止まらないだろうが、一考になれば幸甚である。 以上。</p>	<p>います。</p> <p>○市立病院の閉院後の利活用については、現在、市の内部において、まちづくりの視点など、様々な角度から検討を進めており、市民にとってどのような活用が望ましいかという本質的な部分をしっかり踏まえて、さらに検討を重ねてまいります。</p>
5	Eメール	市内に住所を有する人	<p>1. 新中核病院へ意見を求めるとはいうものの、市民へ公開される情報の少なさ加減</p> <p>12月3日から、新中核病院への意見の募集がされています。その意見募集の材料として市ホームページに公開されている情報は「統合・整備のイメージ」と「基本協定概要」「基本計画」だけです。</p> <p>そこで、</p> <p>① 整備費用は総額126億円を見込み、弘前市はそのうち、上限40億円を負担すること、そして開業後、40年間にわたり毎年2.5億円を負担することとされています。しかし、この金額の根拠を情報公開請求しても、数字は開示されるものの、それ以外の検討できる情報が開示されま</p>	<p>○整備費用約126億円の内訳については、建物整備費104.7億円、解体費4.1億円、アスベスト処理費4.0億円及び医療機器整備費13.5億円と試算されております。</p> <p>年2.5億円の負担については、病院施設の耐用年数が39年であることから、40年間を目安とし、この期間において新中核病院が安定的に運営され</p>

		<p>せん。なぜこのような金額になったのか、このような金額の金員を弘前市が負担することになったのかについては不明のままです。これら金額の根拠を算定した資料を公表し、分かりやすく市民に説明して下さい。</p> <p>② 開業に向け、4者協議などが断続的に開催されているものと思われませんが、都度、その打合せなどの情報を市のホームページなどで公表していただけないでしょうか。市民からの意見を募集したとしても、果たしてそれら意見が同協議の場に反映されるのかも検証できません。誠意をもった対応をして下さいますようお願い致します。</p>	<p>るよう、費用の一部を市が負担することとしたものです。</p> <p>○意見募集については、市民をはじめとした関係する方々が、新中核病院にどのようなことを望まれているかを知るため、意見や提案を募集したものであることから、いただいた意見等を国立病院機構や関係者と共有しながら、今後の整備・運営の参考とさせていただきます。</p> <p>協議内容の公表については、現在、国立病院機構、弘前市、青森県、弘前大学の四者で締結した基本協定及び基本計画をもとに詳細な事項の検討を進めておりますが、検討の過程での様々な意見や方向性が確定されていない情報につきましては、協議・交渉の当事者にお</p>
--	--	--	--

		<p>2. 周辺自治体立病院、市内民間病院との連携（地域との連携）</p> <p>新中核病院が津軽医療圏の二次救急分野で拠点となるであろうことは議論の余地のないところです。しかし、周辺自治体病院においても一定の二次救急受入態勢が無ければ、津軽医療圏全体を展望した場合に本来の有効な救急医療態勢は構築されないものと思います。これについての議論はされているのでしょうか。情報の提供をお願い致します。</p> <p>また、急性期医療を支える療養病床の確保も急務です。そして、それらを支える医師をはじめとした医療スタッフも必要です。弘前市内では療養病床をもっている医療機関は少なく、勤務する医師、開業されている医師の方々の高齢化が進んでいると聞いています。</p> <p>新中核病院構想のみを検討するのでは本来の津軽医療圏における医療は完結しません。周辺自治体病院、市内の主要な病院との医療連携と何よりも絶対数が少ない医師の確保についても積極的、具体的な検討をお願い致します。</p>	<p>ける事務事業情報であり、事業の適正な遂行に支障となる恐れがあることから、公表を控えております。</p> <p>○青森県地域医療構想の中で、津軽圏域の医療課題を解決するための方策として、中核病院の整備の他、自治体病院の回復期・慢性期への機能分化、民間医療機関との役割分担と連携を掲げ、高度急性期から在宅医療・介護に至るまで切れ目なく一体的な医療提供体制の構築を目指すこととしております。</p> <p>急性期医療の拠点となる新中核病院の整備により、二次救急医療体制の維持や高度・専門医療の充実等に加え、弘前大学と連携した若手医師の育成拠点となり、医師の確保にもつながることも期待されます。</p>
--	--	--	--

		<p>3. 災害拠点病院</p> <p>新中核病院は災害拠点病院としての機能ももつようです。どのような災害を想定し、どのような機能をもつようにしているのか情報を公開して下さい。</p>	<p>新中核病院の整備を踏まえ、県が開催している地域医療構想調整会議においては、自治体病院だけでなく民間病院を含めた機能分化・連携が議論されており、療養病床についてもこれらの病院の回復期・慢性期への一部転換等により確保されるものと考えております。</p> <p>市といたしましても、市民をはじめとする津軽圏域の住民等に長期にわたり安心・安全で良質な医療を提供できるよう、国立病院機構、青森県、弘前大学、関係機関等と連携しながら安心できる医療提供体制の構築に努めてまいります。</p> <p>○災害時に多発する重篤救急患者の救命医療を行うための高度診療機能を有し、災害医療を提供する上での中心的な役</p>
--	--	--	--

				<p>割を担う災害拠点病院には、基幹災害拠点病院と地域災害拠点病院の2種類があり、災害医療に精通した医療従事者の育成も担う基幹災害拠点病院には弘前大学医学部附属病院が、二次医療圏の中心的な役割を担う地域災害拠点病院には市立病院と国保黒石病院の2つの病院が指定されています。</p> <p>新中核病院では、これまで市立病院が担ってきた地域災害拠点病院の役割を引き継ぐこととなりますが、基本計画の中で「大規模災害時においても診療機能が維持できる整備」としており、現在、国立弘前病院と市立病院の両病院のスタッフにおいて、実務的な検討を進めております。</p>
--	--	--	--	--

		<p>4. 診療科の増設にかかわって</p> <p>診療科が増設されることに伴って、外来患者も大幅に増えることが想定されます。また、救急車のアクセス道路の確保も今以上に大事になってきます。</p> <p>(ア) 交通、駐車場</p> <p>新中核病院建設予定地である国立病院機構弘前病院（以下、「弘前病院」という。）へのアクセスの問題です。</p> <p>弘前病院周辺は現在でも車が渋滞しがちな箇所です。交差点も複合的に入り組んでいることから新中核病院が開業する段になると渋滞に拍車がかかることが想定されます。これについての対策は、救急車両の運用との関係でも重要課題です。</p> <p>また、駐車場確保についてです。敷地内にどのように新たな建物の配置を予定しているのか不明ですが、通院患者増のため、時間帯によっては入庫できないという事態が発生することが懸念されます。対策を講じる必要があります。</p> <p>現状、弘前大学医学部付属病院への通院等の患者車両が本町の通りに連なっている光景を眼にします。同様のことが起こらないよう、事前に対策を講じて下さい。</p>	<p>○新中核病院への交通アクセスについては、新病院の開院に伴い、これまで市立病院に入院・通院されていた患者や近隣市町村からの新たな来院者のほか、職員等による交通量が増加することが見込まれることに加え、救急搬送経路の確保に向けた環境整備が重要であることから、現在、交通需要予測による混雑度の解析や交差点改良の必要性、公共交通の利便性などの検討を行っております。</p> <p>今後、この検討結果を踏まえ、交差点改良や道路整備等の必要性を判断し、患者をはじめとする全ての来院者が安全で円滑にアクセスできるよう、国立病院機構や道路管理者等との連携を密にして対応してまいります。</p>
--	--	---	--

		<p>(イ) 待ち時間と建物内患者導線</p> <p>診療科の増も相俟って、新中核病院で複数科を受診するという患者が増えるものと思われます。受診までの待ち時間対策や患者の導線についても配慮が必要ですし、高齢者によっては説明を受けただけでは向かうべき診療科に一人で移動できないということも想定されます。ボランティアを含む案内、誘導係の配置が必須です。ご検討下さい。</p> <p>5. 400床以上の中核病院、地域医療支援病院の特別料金、初診料について</p> <p>紹介状を持参せずに、地域の中核病院を直接受診すると、国のルールに基づき、通常の初診料などに加え、特別料金を徴収されます。この対象となる基準が昨年4月からそれまでの500床以上から400床以上へと変更されました。これにより、弘前病院に設置される新中核病院も450床ということですから特別料金徴収が義務付けになります。この徴収対象となる患者のうち、新中核病院開業まで弘前市立病院に通院していた患者はどのような扱いになるのでしょうか。</p> <p>また、新中核病院開業まで弘前市立病院に通院していた患者が紹介状を持</p>	<p>○新病院の施設整備計画の中で「患者搬送や患者が移動しやすい動線も考慮し、効果的・効率的な構造」とする他、「誰もが利用しやすいようユニバーサルデザインに配慮した整備」等とすることとしていることから、通院患者をはじめとする来院する方々の利便性の向上が図られるよう、国立病院機構と連携して整備を進めてまいります。</p> <p>○市立病院の入院患者及び通院患者の取扱については、基本協定の中で原則、新中核病院に引き継ぐこととしております。新中核病院開設時点の国のルールを確認する必要がありますが、患者の負担が生じることがないように留意しながら、具体的な取扱の検討を進めてまい</p>
--	--	--	---

			<p>参した場合の扱いは初診になるのか、再診扱いになるのか……どのようになるのでしょうか。ご教示下さい。 以上</p>	<p>ります。</p>
6	Eメール	市内に住所を有する人	<p>新中核病院に対する意見を送ります。 新中核病院の役割の一つに、急性期医療があります。 医療の質と量を確保するためには、以下の課題があります。 これらの課題をどのように克服できるのか、できないのかを市民に明らかにすることが必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性期の医療を担う医師、看護師の確保 2) 急性期の病床が回転するためには、急性期を過ぎた患者の転医先（回復期病床）の確保 3) 急性期医療に対する市民、弘前市、医療者（医師会、弘前大学医学部を含む）、そしてマスコミが、それぞれの責務を理解し、同じ目標に向けて行動する。 4) 周辺市町村との連携（市町村職員、周辺自治体病院と南黒・西北五・青森市医師会、周辺市町村の住民が連携する） <p>1) については、20年間は全国レベルに達しないことを前提に10年、20年先の姿を示すことを提案します。 難解な、わかりにくい提案ではなく、市民が理解できるようにわかりやすく示すことが重要です。</p>	<p>○新中核病院の整備は、二次救急医療体制の維持をはじめとする津軽圏域の医療課題を解決し、地域の人々が必要とする医療を将来にわたって提供できる体制を確保するための方策として、国立弘前病院と市立病院を統合し、新たな中核病院を整備することが決定しました。</p> <p>急性期医療の拠点となる新中核病院の整備により、二次救急医療体制の維持や高度・専門医療の充実等に加え、弘前大学と連携した若手医師の育成拠点となり、医師の確保にもつながることも期待されます。</p> <p>ご質問の点につきましては、新中核病院のみの課題ではなく、津軽地域保健医療圏をはじ</p>

		<p>2) については、現在病床を持っている民間病院、周辺自治体病院との協議の場を設置することを提案します。</p> <p>その範囲は、中弘南黒に限らず西北五地域にまで広げるのがよいと考えます。</p> <p>3) 「医療を守る条例」の制定を提案します。</p> <p>弘前市だけでなく、周辺自治体と歩調を合わせて進むことも重要です。</p>	<p>め、青森県全体の課題であると考えます。</p> <p>津軽圏域市町村のみではなく、青森県とも連携し、住民が安心できる医療体制の構築に努めてまいります。</p> <p>○急性期を過ぎた患者の回復期病床の確保については、青森県地域医療構想の中で、自治体病院等の方向性として、新中核病院との連携体制の構築や回復期・慢性期への機能分化が掲げられており、今後、県の地域医療構想調整会議において、自治体病院等の機能再編成による機能分化・連携の推進が図られることと考えております。</p> <p>○地域の医療を守るためには、医療機関や行政だけでなく、住</p>
--	--	---	--

		<p>医療を守る主体は、市民、医療者、弘前市（行政）、そしてマスコミの4者です。</p> <p>4) 弘前市民だけでなく、津軽・西北五医療圏に住む住民が参加する「新中核病院についてしゃべる会」を立ち上げることを提案します。</p> <p>延岡市における地域医療の取り組み～ 医療者が働きたい街 No.1を目指して～ https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000362736.pdf</p> <p>いわき市地域医療を守り育てる基本条例 ～私たちがちょっとした心がけでできること～ http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1505196310753/index.html</p>	<p>民の皆さんも含めた地域全体で、地域医療が抱える課題を正確に認識し、限りある医療資源を大切に活用していくことが重要であると思いますので、条例制定の必要性も含め、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>○新中核病院の整備は、津軽地域の医療課題を解決し、地域の人々が必要とする医療を将来にわたって提供できる体制を確保するための方策として、青森県地域医療構想に盛り込まれたものです。</p> <p>青森県地域医療構想では、人口規模や患者の受診動向の他、地理的・生活圏等の状況に加え、保健・医療・福祉・介護サービスの提供との整合性などを総合的に判断して、県内を6つに区分し、構想区域として設</p>
--	--	---	---

				<p>定しております。</p> <p>青森県地域医療構想の実現のためには、それぞれの構想区域において、各区域の医療課題の解決に向けた様々な施策、取り組みが行われることで、青森県の地域医療構想の実現が図られるものと考えます。</p> <p>地域の医療を守るためには、地域医療が抱える課題、現状を多くの方に知っていただき、認識を深めていただく機会が必要と思いますので、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>津軽地域の人々が必要とする医療を将来にわたって提供できる体制を確保するため、国立病院機構、青森県、弘前大学と連携し、2022年早期の新中核病院の運営開始を目指してまいります。</p>
--	--	--	--	---